

ブロック名：加齢と老化リハビリテーション（ブロック①）

月日	曜日	時限	授業タイトル	講義担当者		授業終了後に説明できる事項	事前学習
				氏名	所属		
1.7	月	I	高齢者の生理機能の変化、病態の特徴	長谷 都	細胞・器官生理	1. 生理的老化と病的老化 2. 老化学説 3. 栄養供給と老化	生理学教科書で該当部門を読む
"	"	II	高齢者の在宅医療の意義、問題点	長谷川 泰弘 行田 菜穂美	神経内科 MSC看護	1. 少子高齢化社会、現在の社会環境について説明できる 2. 介護保険制度及び退院支援について説明できる 3. 高齢者の在宅医療における問題点を説明できる	教科書及び参考資料等より該当内容を事前学習する。
"	"	III	高齢者のターミナルホスピス	長谷川 泰弘 桑島 規夫	神経内科 MSC	1. 高齢者の終末期療養の場 2. 緩和ケア・ホスピスの概念・意義 3. ターミナル期の患者・家族を支援する社会資源	教科書及び参考資料等より該当内容を事前学習する
1.8	火	I	高齢化社会と法令(身体障害・介護認定その他)	山徳 雅人	神経内科	1. 高齢者に関連する法律の構成と内容 2. 身体障害認定 3. 介護認定、その他	該当箇所を教科書等熟読しておく
"	"	II	機能障害、能力低下、社会的不利、日常生活動作(ADL)の評価	仁木 久照 陽介	整形外科 リハビリテーション部	1. 日常生活動作 (ADL) 評価の方法、内容について理解できる 2. 高齢者総合機能評価 (Comprehensive geriatric assessment : CGA) の概念が説明ができる 3. 国際生活機能分類 (ICF) の概念が説明ができる	教科書・参考書の該当箇所の学習
"	"	III	高齢者の転倒・骨折、リハビリテーションの概念と適応	原口 直樹	整形外科	1. 高齢者の転倒・骨折の現状と動向 2. 閉じこもり・廃用症候群 (サルコペニア含む) 3. リハの理念、構成、ノーマライゼーション	高齢者の転倒・骨折、閉じこもりと廃用症候群、リハの概念
1.9	水	I	理学療法、作業療法、物理療法	仁木 久照	整形外科	1. 牽引法と固定法 2. 運動療法 (理学療法、作業療法) 3. 物理療法と装具療法	リハビリテーション治療法の概念について
"	"	II	呼吸器のリハビリテーション	井上 健男	呼吸器内科	1. 呼吸器疾患における呼吸リハビリテーションの重要性 2. 包括的呼吸リハビリテーションの概念 3. 呼吸リハビリテーションで得られる臨床効果	呼吸リハビリテーションの現状について
"	"	III	心筋梗塞のリハビリテーション	木田 圭亮	循環器内科	1. 心筋梗塞のリハビリテーションの背景と目的を説明できる 2. 心筋梗塞のリハビリテーションの方法と禁忌を説明できる 3. 心筋梗塞のリハビリテーション効果と注意を説明できる	事前講義資料をダウンロードし目を通して予習をしておくこと
1.10	木	I	運動器(四肢関節)のリハビリテーション	平野 貴章	整形外科	1. 四肢の計測方法・筋力測定方法を実施できる 2. 筋力強化訓練法、可動域訓練を理解し処方できる3. ADL訓練の必要性を理解し処方できる	具体的な四肢計測方法、筋力強化訓練、可動域訓練、また日常生活動作の訓練方法
"	"	II	脊髄損傷のリハビリテーション	赤澤 努	整形外科	1. 脊髄損傷高位と機能障害の関係 2. 四肢麻痺と対麻痺のリハビリテーション 3. 脊髄損傷の合併症	教科書にて脊髄損傷の全体の概念について自習する
"	"	III	脳血管障害のリハビリテーション	長谷川 泰弘	神経内科	1. 急性期、回復期、維持期に分けてリハの特徴を概説できる 2. 脳卒中専門病棟 (SU)の意義、エビデンスを概説できる 3. 片麻痺のリハ、評価法を概説できる	推奨図書に目を通しておく